

「未来につなぐ下水道事業プラン」（町田市下水道事業経営戦略）

※「経営戦略事業（小施策）」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例

A・・・大変良い（目標を大きく超えて達成できた）
B・・・良い（目標を達成した）
C・・・やや悪い（目標を一部達成できなかった）
D・・・悪い（目標を達成できなかった）
－・・・該当なし（当初から事業の予定がなかった）

基本方針	目的	経営戦略事業 （小施策）	担当課	目 標	2023年度末の目標	2023年度の事業内容	2023年度達成状況	2023年度実績	2023年度評価	2023年度評価理由	備考
1 環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進	(1) 住環境の改善	① 污水管整備事業	下水道整備課	水洗化率 100% （2026年度末）	①整備延長 L=2.2km ②合併処理浄化槽への切替え基数 16基	①市街化区域、市街化調整区域及び道路関連事業等に伴う污水管整備工事実施 ・ 污水枝線工事 L=2.2km ②事業内容 ・ 配管費補助の継続 ・ 維持管理費補助の案内に、単独処理浄化槽への補助金廃止予定を明記し、合併処理浄化槽への転換を促進 ・ 啓発活動実施	①污水幹線及び枝線の整備については、道路整備関連事業において用地取得が進まず下水道工事に着手できなかったことなどに伴い、計画延長よりも実施延長が短くなっている。 整備延長 L=1.5 k m ②達成状況 ・ 合併処理浄化槽設置補助 申請 3件、うち実施完了 3件 ・ 維持管理補助の案内に、単独処理浄化槽への補助金廃止予定（2026年度）を明記し、送付済 ・ 設置補助案内送付 6/14発送 78件 ・ 啓発活動として、下水道事業計画区域外である地域への設置補助案内の個別訪問を実施 42件	①整備延長 L=1.5 k m ②合併処理浄化槽への切替え基数 3基 ※水洗化率 99.5%	C	①計画していた污水枝線工事が、一部実施できなかったため。 ②2022年度に公共下水道事業計画区域が拡大し、補助対象となる浄化槽基数及びくみ取り便槽が減少した影響を受け、補助金を活用した合併処理浄化槽の転換は、目標を大きく下回ったため。	
		② 未接続家屋への污水管接続の普及啓発指導	下水道整備課		污水管接続件数 30件 （供用開始から3年以上経過している家屋）	・ 年間を通じて市内全域にある未接続家屋に普及活動を行う。 ・ 供用開始して間もない家屋に普及活動を行う。	・ 未接続家屋の所有者へ公共下水道接続を促す文書を送付するとともに、下水道接続時期を確認するためのアンケートを実施した。	污水管接続件数 17件 （供用開始から3年以上経過している家屋）	C	目標の污水管接続件数を達成しなかったため。	
		③ グリーストラップの適正な維持管理方法の周知	下水道管理課		管清掃延長（緊急） 0.52km削減	管清掃延長 3.92km以下	油脂の流出による污水管の閉塞を防ぐために飲食店などを訪問し、グリーストラップの点検、清掃などの適正な維持管理方法を周知していき、油脂を起因とした詰まりによる管清掃延長を減らす。 2023年度は管清掃延長が3.92km以下となるように周知・啓発を行う。	6月の油脂点検調査の結果、油脂の付着が多いと判明した管きょ付近の飲食店など26店舗を抽出した。それらに対して、店舗訪問を行い、グリーストラップの適正な維持管理方法を周知した。 その結果、管清掃延長が目標値内に収まった。	管清掃延長 3.5km	B	予定どおり目標を達成したため。
	(2) 河川の水質向上への貢献	① 下水処理水の水質向上	水再生センター	高効率散気装置導入率89%	高効率散気装置導入率39%	現在、高度処理化されていない、又は高効率の散気装置が導入されていない水処理施設が鶴見川クリーンセンターには6池、成瀬クリーンセンターには6池ある。 2023年度はそのうちの1池（鶴見川クリーンセンター分）を高効率散気装置に交換する。	2024年3月に鶴見川クリーンセンターの1池を従来の散気装置から高効率散気装置に交換した。 これにより、高効率散気装置導入率39%を達成した。	高効率散気装置導入率39%	B	鶴見川クリーンセンターの1池を従来の散気装置から高効率散気装置に交換し、これにより高効率散気装置導入率39%を達成したため。	
			下水道管理課		水路点検延長 12km	水路の効率的かつ効果的な維持管理を推進するため、2022年度に作成した水路台帳を基に水路点検要領を作成し、水路修繕計画策定のための点検を実施する。	水路の点検要領の策定が完了した。その点検要領に基づき、対象水路の点検を16 k m実施した。また、点検結果を基に、水路構造物の劣化状況の取りまとめを行った。	水路点検延長 16 k m	B	予定どおり目標を達成したため。	点検対象水路延長は、残り20 k mとなった。
			下水道整備課		浄化槽維持管理費補助制度対象者の制度利用率 60%	・ 浄化槽維持管理費補助制度の利用促進 ・ 三大義務（保守点検・清掃・法定検査）の未実施者に対する啓発活動実施	・ 浄化槽維持管理費補助金対象者に申請書等送付 1,416件 ・ 維持管理補助申請促進通知 523件（法定検査実施済みの管理者宛） ・ 浄化槽維持管理費補助実施 646件 ・ 法定検査受検促進通知 780件 ・ 法定検査受検件数 801件（7条14件、11条787件） ・ 啓発活動として、下水道事業計画区域外において、2021年以降三大義務（保守点検・清掃・法定検査）のいずれも未実施の者を対象として抽出し、啓発文書を送付 80件	浄化槽維持管理費補助制度対象者の制度利用率 45.6% （646/1416）	C	三大義務実施者への補助金利用促進と未実施者への啓発活動により、一定の利用率を確保しているが、目標値には届いていないため。	

「未来につなぐ下水道事業プラン」（町田市下水道事業経営戦略）

※「経営戦略事業（小施策）」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例

A・・・大変良い（目標を大きく超えて達成できた）
B・・・良い（目標を達成した）
C・・・やや悪い（目標を一部達成できなかった）
D・・・悪い（目標を達成できなかった）
－・・・該当なし（当初から事業の予定がなかった）

基本方針	目的	経営戦略事業（小施策）	担当課	目 標	2023年度末の目標	2023年度の事業内容	2023年度達成状況	2023年度実績	2023年度評価	2023年度評価理由	備考
	(3) 地球温暖化対策と資源の循環利用	① 温室効果ガスの削減	水再生センター	第3計画期間（2024年度末）5ヵ年平均25%減	基準排出量より2020～2024年度5ヶ年平均で、25%削減	効率的な機器の運転等により、エネルギー使用を抑制し、温室効果ガス排出量の削減を図る。 成瀬クリーンセンターでは、安定的な高温（850℃）での污泥焼却炉運転により、削減効果の高い温室効果ガス（N ₂ O）を定常的に削減する。 鶴見川クリーンセンターでは、町田市バイオエネルギーセンターで発電したCO ₂ 排出量が少ない電力を利用することでCO ₂ を削減する。	エネルギー起源CO ₂ の排出量としては、成瀬クリーンセンターでは省エネに努めて電力使用量を低減することで約17%、鶴見川クリーンセンターでは、上記に加え、町田市バイオエネルギーセンターで発電したCO ₂ 排出量が少ない電力を利用することで約94%削減した。 さらに成瀬クリーンセンターでは高温焼却によるN ₂ O削減量をCO ₂ の削減量に換算することができるため、CO ₂ 排出量を約41%削減できた。 水再生センター全体として、合計で約61%の削減を達成した。	基準排出量からの削減率 約61%	A	CO ₂ 排出量が少ない電力の利用や効率的な機器の運転等によって、目標値の削減率25%に対して、実績値が約61%と目標値を大幅に上回ったため。	高温焼却によりN ₂ Oを削減した場合、「N ₂ O削減量（t）×CO ₂ 排出係数÷2」をCO ₂ 削減量として算出することができる。
		② エネルギー・資源の有効利用	水再生センター	再資源化率99.5%	再資源化率98.5%	下水処理場から発生する全ての産業廃棄物（污泥焼却灰や沈砂污泥など）について、建設資材などへの再資源化を実施する。 排ガスのエネルギー（熱・圧力）を活用した「過給式流動燃焼システム」の導入に向け、鶴見川クリーンセンター污泥焼却設備更新工事として、既設1号焼却炉の撤去工事を実施する。	再資源化率は、種類ごとに ・污泥焼却灰発生量758.8 t で100% ・沈砂污泥発生量947.7 t で99.7% ・その他廃棄物発生量37.9 t で97.6% ・総発生量1744 t 中1741 t の再資源化を行い再資源化率は99.8%となり、目標を達成した。 鶴見川クリーンセンター污泥焼却設備更新工事は、予定どおり、2023年度末時点で撤去工事を完了し、機器製作を実施した。	再資源化率 99.8%	B	目標値の再資源化率98.5%に対して、実績値が99.8%と目標値を上回ったため。	
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築	(1) 浸水対策の推進	① 浸水対策事業	下水道整備課	整備箇所数22箇所	整備箇所数3箇所	・浸水対策として、雨水管整備工事を実施する。 ①本町田東1号雨水幹線その5工事 ②本町田東1号雨水幹線その4工事（繰越分） ③鶴間八丁目雨水枝線その2工事（繰越分）	・①の工事については、他企業埋設管の移設工事が遅延し、調整に時間を要したことから年度内未完了となった。 ・②及び③の工事は完了 整備箇所数 2箇所	整備箇所数 2箇所	D	関係企業との工事調整や入札不調により遅れが生じたため、工事が年度内に完了できなかったため。	
			下水道経営総務課		①境川の早期整備を要望 ②鶴見川の整備状況の確認	・境川について、境川流域総合治水対策協議会において、整備状況を確認するとともに、河川管理者に早期整備を要望する。 ・鶴見川について、鶴見川流域水協議会において、整備状況の確認を行う。	・境川について、境川流域総合治水対策協議会において整備状況を確認した。また神奈川県藤沢土木事務所、厚木土木事務所東部センター及び津久井治水センターに対し、整備状況を確認し早期整備を要望した。また、神奈川県庁に対し早期整備を要望した。 ・鶴見川について、鶴見川流域水協議会において、「今年度の鶴見川流域水マスタープラン」の推進方針について情報を共有し、鶴見川の整備状況についても確認した。	①境川の整備状況の確認及び早期整備の実施要望 ②鶴見川の整備状況の確認実施	B	2023年度の整備状況及び2024年度の整備スケジュールを確認した。合わせて早期整備の実施要望を行い、目標を達成したため。	
			下水道管理課		雨水浸透設備設置補助件数10件	個人住宅に対して、雨水浸透設備設置を設置する際に、補助金を交付し、雨水浸透設備の整備促進を図り、浸水被害の軽減に寄与する。	個人住宅に対して、11件の補助を行った。 排水設備計画確認申請において、浸透ますの設置を指導した結果、約7000基以上の浸透ますが設置された。	補助件数 11件	B	予定どおり目標を達成したため。	
			下水道部全課		水のう袋を配布し自助を啓発する	市民センターや市立の小中学校等に水のう袋を支給して雨水流入の防止に努めるように協力依頼を行う。	6月の「浸水対策強化月間」に併せ雨天時の浸入水防止対策の取り組みとして、市立小中学校62校、図書館7か所、市民センター10か所等へ水のう袋を支給するとともに屋外流しからの雨水流入の防止方法を周知した。	水のう袋の配布（自助啓発）を実施	B	予定どおり目標である水のう袋の配布を実施し、屋外流しからの雨水流入の防止方法を周知したため。	
			下水道部全課		豪雨前のパトロールの実施2回	梅雨入り前、台風シーズン前に水路、下水道施設の点検及び清掃を行い、浸水被害の低減を図る。 2023年度は、2回パトロールを行う。	大雨や台風の前にパトロールを合計4回行い、点検清掃により浸水被害の低減を図った。	豪雨前のパトロールの実施 4回	B	予定どおり目標を達成したため。	
		② 下水道事業継続計画（水害編）の運用管理及び訓練の実施	下水道部全課	人命を守る犠牲者ゼロ	訓練実施回数2回	・下水道部では下水道BCP（水害編）を適切に運用する。 ・町田市総合水防訓練（図上訓練）に合わせて下水道BCP（水害編）に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図る。 ・下水道BCP（水害編）を必要に応じて修正・更新作業を行う。	・下水道BCM部会を9回開催し、下水道BCPの運用管理を行った。 ・下水道BCP（水害編）に基づく訓練を2回実施した。 ・訓練では、風水害時所掌事務の確認、新防災システムの操作研修、風水害に関する動画視聴、eラーニングを実施し、職員の習熟度を深めた。 ・部会や訓練を通して下水道BCP（水害編）が適切な内容であることを確認した。	訓練実施回数 2回	B	下水道BCP（水害編）に基づく訓練を年2回実施し、目標を達成したため。	

「未来につなぐ下水道事業プラン」（町田市下水道事業経営戦略）

※「経営戦略事業（小施策）」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例

A・・・大変良い（目標を大きく超えて達成できた） D・・・悪い（目標を達成できなかった）
B・・・良い（目標を達成した） -・・・該当なし（当初から事業の予定がなかった）
C・・・やや悪い（目標を一部達成できなかった）

基本方針	目的	経営戦略事業（小施策）	担当課	目 標	2023年度末の目標	2023年度の事業内容	2023年度達成状況	2023年度実績	2023年度評価	2023年度評価理由	備考
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築	(2) 地震対策の推進	① 成瀬クリーンセンターの耐震化	水再生センター	耐震化率81.5%	耐震化率72.4% （現状値:72.4%）	耐震補強工事 ・ 汚泥処理棟 （2022～2024債務負担行為）	2023年度末時点では、工事施工中である。引き続き汚泥処理棟の建築構造物の耐震補強工事を進め、予定どおり、2024年度に工事完了する見込みである。	耐震化率72.4%	B	汚泥処理棟の耐震補強工事は、予定どおり2024年度に完了する見込みのため。	
		② 鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の耐震化	水再生センター	耐震化率 鶴見川CC71.2% 鶴川ポンプ場100%	耐震化率 鶴見川CC21.9% （現状値:21.9%）	耐震補強工事 ・ 焼却炉棟、煙突基礎 （2023～2024債務負担行為） 耐震診断 ・ 水処理棟（1～2系列） ・ 鶴川ポンプ場	耐震補強工事 入札不調により耐震補強工事に着手できなかった。見積活用方式で2024年度に工事着手し、完了を目指して施工を進める。 耐震診断 2023年度末に耐震診断業務を完了した。	耐震化率21.9%	C	耐震診断については、予定どおり全ての施設の耐震診断が完了したが、耐震補強工事において入札不調により工事着手に遅延が生じたため。	鶴川ポンプ場（ポンプ棟）は、2029年度耐震補強工事完了予定。
		③ 汚水管の耐震化	下水道整備課	汚水管の重要な幹線等の耐震化率100% （2021年度末）	耐震化率 100% （目標達成済）	—	—	耐震化率 100% （目標達成済）	B	汚水管の重要な幹線等については、2021年度末時点で、目標としていた耐震化率100%達成し事業完了したため。	2023年度の町田市総合地震対策改定により増加した対象箇所については、今後別途対応予定
		④ 雨水管の耐震化	下水道整備課	雨水管の重要な幹線等の耐震化率100%	耐震診断実施 L=2.7 km	・ 緊急輸送路などに布設され、かつ、液状化の可能性が高い雨水管の耐震化のため、雨水幹線の耐震診断実施	・ 計画した雨水幹線及び枝線の耐震診断は予定どおり完了 耐震診断延長 L=2.7 km	累計耐震診断延長 L=8.1 km	B	目標とした雨水幹線及び枝線の耐震診断L=2.7 kmが完了したため。	
		⑤ 避難施設へのマンホールトイレの整備	下水道整備課	整備済み避難施設数 71施設 （2025年度末）	整備済み避難施設数 59施設	・ 災害時における避難施設のトイレ機能確保のためマンホールトイレ整備工事実施 ①成瀬中央小学校、南つくし野小学校 ②木曽境川小学校、陸上競技場	・ 計画したマンホールトイレ整備工事は予定どおり完了 ①成瀬中央小学校、南つくし野小学校 ②木曽境川小学校、陸上競技場 計4施設 整備済み避難施設数 59施設	整備済み避難施設数 59施設	B	目標とした4施設へのマンホールトイレ整備が完了したため。	
		⑥ 下水道事業継続計画（地震編）の運用管理及び訓練の実施	下水道部全課	訓練と見直し実施	訓練実施回数 2回	・ 下水道部では下水道BCP（地震編）を適切に運用する。 ・ 下水道BCP（地震編）に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図る。 ・ 下水道BCP（地震編）を必要に応じて修正・更新作業を行う。	・ 下水道BCM部会を9回開催し、下水道BCPの運用管理を行った。 ・ 下水道BCP（地震編）に基づく訓練を2回実施した。 ・ 訓練では、土嚢積み、仮設トイレ設置、炊き出し、新防災システムを使用しての入力訓練を実施し、職員の習熟度を深めた。 ・ 部会や訓練を通して下水道BCP（地震編）が適切な内容であることを確認した。	訓練実施回数 2回	B	下水道BCP（地震編）に基づく訓練を年2回実施し、目標を達成したため。	

「未来につなぐ下水道事業プラン」（町田市下水道事業経営戦略）

※「経営戦略事業（小施策）」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例

A・・・大変良い（目標を大きく超えて達成できた） D・・・悪い（目標を達成できなかった）
B・・・良い（目標を達成した） -・・・該当なし（当初から事業の予定がなかった）
C・・・やや悪い（目標を一部達成できなかった）

基本方針	目的	経営戦略事業（小施策）	担当課	目 標	2023年度末の目標	2023年度の事業内容	2023年度達成状況	2023年度実績	2023年度評価	2023年度評価理由	備考
3 経営の効率化及び健全化・より良い下水道サービスの導入	(1) 効率的・効果的な維持管理の推進	① 状態監視保全の維持管理	水再生センター	1) 下水処理施設の 詳細調査件数 100 件以上	下水処理施設の詳細 調査件数 1 0 件以上	成瀬クリーンセンターで直流電源設備の蓄電池、 鶴見川クリーンセンターで反応タンク設備の散気装置、 鶴川ポンプ場で汚水ポンプ設備など、 合計 1 0 件以上の下水処理施設の詳細調査を実施する。	成瀬クリーンセンターにて汚泥掻き寄せ機など5件、鶴見川クリーンセンターと鶴川ポンプ場にて散気装置など5件、合計10件の下水処理施設の詳細調査を実施した。	下水処理施設の 詳細調査件数 10件	B	目標水準を達成し、設備の劣化状況の確認をした。この結果、今後の設備の延命化やコスト平準化を意識した改修・修繕方法の検討に必要なデータの収集・蓄積ができたため。	
			下水道管理課	2) 下水道管の点検・ 調査延長542km	調査延長 54km	「町田市ストックマネジメント計画」の実施方針により点検・調査計画を策定し、その優先順位に基づき、管路施設の異常の有無を把握するために、TVカメラ調査や目視調査などの簡易的な調査を行う。 2023年度は、成瀬ブロックの管路施設54 k mの調査を行う。	予定どおり、TVカメラ調査、目視等の調査、評価及び分析を行い、54kmの管路施設について、劣化状況を把握することができた。 （2024年3月完了報告済）	調査延長 54km	B	予定どおり目標を達成したため。	
		② 腐食環境下にある 下水道管の点検	下水道管理課	点検箇所数294箇所	点検箇所 27箇所	下水道管の腐食が予測される箇所について、法令を遵守し定期的な点検を実施する。 2023年度は、河川部の伏せ越し及び、金井処理分区、三輪処理分区、大蔵処理分区を対象に27箇所の点検を行う。	予定どおり、現場での27箇所の点検及び点検結果のまとめを行った。点検結果として腐食による修繕対応箇所が4箇所発見された。 （2024年3月完了報告済）	点検箇所 27箇所	B	予定どおり目標を達成したため。	
	(2) 計画的な改築更新	③ 污水管への浸入水対策	下水道部全課	調査地域19地域	調査地域 2地域	雨天時に浸入水の多い地区において、原因究明のため取付管TVカメラ調査、送煙調査、目視調査などによる詳細調査を行い、確認された不良箇所について改善を行っている。 2023年度は、原町田一丁目地内の1地域において、管内に流量計を設置し、降雨時における浸入水の多い箇所を絞り込むことを目的とし、原因究明と改善計画の策定を行う。 また、鶴川処理分区（西）の雨天時浸入水が多い1地域において詳細調査を行い、原因究明と改善計画の策定を行う。	・原町田一丁目地内については、職員による現場調査を実施し、浸入水対策エリアの見直しを行った。2024年度には、原因究明と改善計画の策定の詳細調査を実施するため、2023年度は調査方法の検討など、その準備を行った。 ・鶴川処理分区（西）については、原因究明のため污水マンホール内に水位計や暗視カメラを設置し、降雨時の汚水量や水位等の詳細調査を実施した。また、調査結果のまとめや不良箇所の改善に向けた検討を行い、工期内の業務を完了した。 以上、2箇所の調査地域について調査を完了した。	調査地域 2箇所	B	予定どおり目標を達成したため。	
		① 下水処理場・ポンプ場の 改築更新	水再生センター	「町田市ストック マネジメント計画」 に基づく改築更新の 実施	成瀬クリーンセンター 工事完了件数：2件 鶴見川クリーンセンター 工事完了件数：3件 （繰越事業）	成瀬クリーンセンター ・水処理設備工事（沈砂池） ・電気設備工事（沈砂池） 鶴見川クリーンセンター ・ポンプ設備工事（主ポンプ） ・汚泥処理設備工事（脱水機） ・電気設備工事（主ポンプ、汚泥脱水設備）	成瀬クリーンセンター ・水処理設備工事（沈砂池） ・電気設備工事（沈砂池） 2件ともに2023年度に完了した。 鶴見川クリーンセンター ・ポンプ設備工事（主ポンプ） ・汚泥処理設備工事（脱水機） ・電気設備工事（主ポンプ、汚泥脱水設備） 3件ともに2023年度に完了した。	成瀬クリーンセンター 工事完了件数：2件 鶴見川クリーンセンター 工事完了件数：3件 （繰越事業）	B	予定どおり、工事が完了し、目標を達成したため。	
		② 管渠の改築更新	下水道整備課		改築工事実施 汚水 L=2.5 k m 雨水 L=0.1 k m	・「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新工事実施 汚水 L=2.5 k m 雨水 L=0.1 k m	・計画した下水道管路の改築更新工事は予定どおり完了 改築工事実施 汚水 L=2.4 k m 雨水 L=0.1 k m	改築工事実施 汚水 L=2.4 k m 雨水 L=0.1 k m	B	目標とした下水道管路改築工事の汚水 L=2.5 k m、雨水L=0.1 k mが完了したため。	